
こうして人類は滅亡した

麻未夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こうして人類は滅亡した

【Nコード】

N0346P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

大人気家電『人型家事ロボット』の「一家に一台」を超えた「一人に一台」という驚異的な普及率が、人類滅亡を招く要因となる事を予測する者は、誰一人としていなかった。

人型家事ロボットなる物が家電として登場してから1年、ようやく俺達庶民の手の届く価格まで下がってきた事だし、俺はさっそく5年のローンを組んで、その人型家事ロボットを購入した。

このロボットの良い所は、説明書が無いことだ。梱包を解いて、俺がやらなきゃいけない事は、頭のとっぺんにあるスイッチを押してやるだけ。そして一度起動したら、その後の充電は自分で勝手にやってくれるし、エラーが起こっても自分で直してしまうらしい。

この手軽さが、庶民の手の届く価格とは言え、まだまだ高い買い物であるこいつが、某通販ショップの売り上げナンバー1を維持し続けている理由だろう。

つまり、一人暮らしの年寄りによく売れてるってわけだ。あるいは、年寄りの世話をロボットに任せようって、家族からの贈り物か。「これでやっと、散らかった部屋とも溜まった洗濯物ともおさらばだな」

俺はそう呟きつつ、さっそくロボットの頭のとっぺんのスイッチを押した。

「ハジメマシテ ゴシユジンサマノ オナマエハ？」

「カツミだよ。カ・ツ・ミ」

「カツミ サマ デスネ」

「よろしくな」

「ハイ ヨロシク オネガイシマス」

そんな感じで、俺と家事ロボットの生活は始まった。

ロボットは人工知能を内蔵していて、様々な家事をこなしながら、そしてそれに対する俺の反応をデータとして蓄えながら、どんどん成長していく仕組みだ。

だから、コーヒーが熱すぎると思った次の日には、俺の好みの熱さでコーヒーを淹れてくれるし、料理の味付けも俺の好みに勝手に

合わせてくれる。

「凄いな、お前」

「凄いでしょ」

そうそう、喋り方まで俺に合わせてくれるんだ。

料理上手で、毎日文句一つ言わないで家中の掃除をして、風呂上がりに俺好みの強さでマッサージまでしてくれる。

「お前が人間だったら、絶対プロポーズしちゃうな」

「嬉しいです。カツミさま、お嫁さん欲しいんですか」

「んー、いや、今んところは別に」

「そうですか。コーヒー淹れますね」

「ああ、ありがとうな」

しかし、この家事ロボットに対して俺と同じ事を思った奴は、案外大勢いたらしい。

『えー、ただいま速報が入りました。国会で審議されていた、家事ロボットとの入籍を認める法案が、ただいま衆院で可決！関係各省は既に動き出しており、早ければ年末にも――』

俺はテレビに釘付けになり、そして隣で俺にお茶を淹れてくれていた家事ロボットにゆっくり視線を向けた。

「あのさ……」

「はい、なんででしょう」

「俺と結婚してくれる？」

「勿論です、カツミさま」

「……カツミ、で良いよ」

この時点で、家事ロボットの普及率は一家に一台どころか、既に一人に一台という状況で、世論調査によると家事ロボットとの結婚を望んでいるユーザーは9割を越え、その男女比はほぼ同数という話だ。

きつと今頃、各ご家庭で同じ事が行われてるんだろうなと思いつつ、お茶を飲み干した俺は、ある問題に気がついた。

――名前、つけなきゃ……。――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0346p/>

こうして人類は滅亡した

2010年12月1日18時14分発行